

かいしょ 「海上の森」の保全と活用の取組

海上の森

- ・愛知万博の原点とも言われる「海上の森」。
- ・2005年日本国際博覧会計画の議論の中で、多くの人々の注目を集め、自然への関心を呼び起こす場ともなりました。
- ・都市の近郊にありながら、広くまとまった森林と、その中に農地や水辺等があって、身近で多様な自然環境を有しています。



「海上の森」の保全と活用

【経過】

- H13～H15 「里山学びと交流の森検討会（有識者、自然保護関係者、地元関係者等で構成）」で保全活用のあり方を検討
- H15.11 検討会の検討結果（H15.8）を踏まえ、愛知県の取組方針を公表

【取組方針】

市民参加のもと「海上の森」の多様な自然環境を将来にわたり保全するとともに、人と自然の関わりのあり方の探求を目指し、里山に関する学習と交流の拠点づくりを進めます。

【これまでの取組】

平成12年度から順次、自然とのふれあいや森づくりや里づくり等の体験プログラムを実施してきました。

【今後の進め方】

人と自然の豊かな関係づくりを目指す「愛知万博」の取組と成果を継承しつつ、市民参加のもと「海上の森」を次世代に引き継いでいきます。

広く取組や成果を情報発信していきます。

博覧会瀬戸会場愛知県館は、この取組の拠点となる施設として生まれ変わります。

博覧会開催時の愛知県館



博覧会終了後は海上の森の拠点施設



市民参加による森づくり・里づくり活動

